

## <<引き続き要注意・注意報レベル継続中>>

### モモせん孔細菌病の防除を徹底してください！！

岡山県病害虫防除所が5月23、24日に行った巡回調査によると、モモせん孔細菌病の発病葉での発生圃場率は50.0%と平年(11.4%)より高く、また、発病果も散見されており、**依然として多発傾向が継続**しています。さらに、**5月20日の強風を伴う降雨によって本病の感染が助長**され、さらなる発病につながる恐れがあります。本年度防除所はすでにモモせん孔細菌病の注意報を発表し、注意喚起を図っていますが、被害の拡大を防ぐために、今後とも①早めの袋掛け、②枝病斑・発病果の除去、③定期的な薬剤散布など、適期・適切な防除に努めてください。

#### 1. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 果実の感染防止のため、本病発生圃場では早めに袋かけを行いましょう。袋かけは、薬剤散布後果実が乾き次第速やかに行いましょう。
- (2) 枝病斑や発病果など発病部位(図1～4)は伝染源となるので見つけ次第除去し、圃場外に持ち出しまししょう。
- (3) モモせん孔細菌病の伝染を抑制するため、袋掛け後も定期的に薬剤散布しまししょう。
- (4) 病原菌は葉や果実の表面(気孔など)や傷口から侵入します。風当たりの強い圃場では防風ネット等で防風対策し、病原菌の飛散を防ぎましょう。
- (5) 平成31年度病害虫発生予察注意報第1号(4月23日発表)、植物防疫情報第1号(4月5日発表)参照。

#### 【主なモモせん孔細菌病の防除薬剤】

(R元. 5.27 現在)

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数	時期	回数
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	4回以内
マイコシールド	1,500～3,000倍	収穫21日前まで	5回以内
マスタピース水和剤 <sup>注1)</sup>	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—

注1) マスタピース水和剤は微生物殺菌剤であるため単用が望ましい



図1 春型枝病斑(1年生枝)



図2 夏型枝病斑(新梢)



図3 発病葉



図4 発病果

**農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。** **早生品種では薬剤の使用時期(収穫前日数)を十分確認する必要があります。** **そのため、特に早生品種との混植園での薬剤散布には十分注意してください。**

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

